

トランプの目的は石油で民主主義ではない、トランプのベネズエラ戦争のこれからは？

ミゲル・ティンカー・サラス（ポモナ大学名誉教授、歴史学）、アレハンドロ・ベラスコ（ニューヨーク大学准教授、現代ラテンアメリカ史）著、脇浜義明訳、「デモクラシーナウ！」、2026年1月5日 *脚注は訳注

「デモクラシーナウ！」はトランプのベネズエラ攻撃について、二人のベネズエラ系米国人学者、ニューヨーク大学の歴史学准教授のアレハンドロ・ベラスコと、ポモナ大学の歴史学名誉教授のミゲル・ティンカー・サラスと対話した。両教授は、トランプが石油埋蔵に何度も触れ、ベネズエラは米国企業から石油を「盗んだ」と言ったことに反応した。ティンカー・サラスは、「ベネズエラは『米国の財産や米国の石油』を奪ったのではない。もともとベネズエラのものを国有化しただけです」と言った。ベラスコは米国の反ベネズエラ・キャンペーンも中心人物のマルコ・ルビオ国務長官に言及し、ルビオの最終的標的は別の国だと言った。「ルビオのこの地域における最大の関心はベネズエラでもコロンビアでもメキシコでもなく、キューバだ」と述べた。

対話：

エイミー・グッドマン：デモクラシーナウ！のエイミー・グッドマンが、ファン・ゴンザレスと共に届けます。米国のベネズエラ攻撃と、ニコラス・マドゥロ大統領とその夫人の拉致についての話を送ります。お二人は、この放送をしている現在、ブルックリンのメトロポリタン拘置所からヘリコプターでニューヨーク連邦裁判所に連行されています。土曜日早朝米軍の攻撃から数時間もしないうちに、トランプ大統領がベネズエラの石油について語った発言を振り返ってみましょう。

トランプ：「そのうえ、ベネズエラは米国の石油、資産、プラットフォームを一方的に押収して売却し、米国に数十億ドルの損害を与えた。彼らはそれをかなり前にしたのに、これまでの米国大統領は何の対策も講じなかつた。ベネズエラは我々の財産をすべて奪った。我々が築いた財産を奪ったのに、これまでの大統領は何か対策を講じる決心をだれ一人しなかった。それどころか、ベネズエラから1万マイルも離れたところで他の戦争ばかりした。ベネズエラの石油産業は米国の才能、米国の情熱、米国の技術が築いたものだ。それを、社会主义の歴代政権が力ずくで奪った。これはわが国の歴史上最大の米国資産窃盗だ。巨大な石油インフラがまるで赤子の手から奪うように奪われたのに、米国政府は何もしなかった。もし私が当時に大統領だったら、ちゃんと手を打つだろう。」

これがトランプ大統領がベネズエラの石油窃盗について語った言葉です。ベネズエラの石油を「わが国に石油」と呼んでいます。

今日は2人のゲストをニューヨークのスタジオに迎えています。一人はアレハンドロ・ベラスで、ニューヨーク大学准教授で、近代ラテンアメリカ史研究者で、アメリカ両大陸を扱った進歩的ジャーナルのNACLA アメリカ大陸レポートの元編集長で、『バリオ・ライジング：「都市人民政治学と現代ベネズエラの成立』の著者です。彼は生まれも育ちもベネズエラです。もう一人は、ミゲル・ティンカー・サラスで、カリフォルニア州クレアモントにあるポモナ大学の名誉教授で、『永遠の遺産：ベネズエラの石油、文化、社会』と『ベネズエラ：知っておくべきこと』の著者です。

お二人さん、デモクラシー・ナウ！にようこと。サラス教授、あなたは数十年間石油問題を研究してこられました。トランプがベネズエラ石油が米国のベネズエラ統治の資金源になると言ったことについて話してください。

ミゲル・ティンカー・サラス：ええ、同じようなことをブッシュも言いました。イラク侵攻のとき、イラクの石油が介入と戦争破壊からの長期的復興の資金源になると、当時のブッシュ大統領が言いました。現実にはイラク戦略は失敗したので、ベネズエラでも失敗するでしょう。ベネズエラの石油産業はこの15年間大きな打撃を受け、今はかつての面影もありません。米国石油会社がベネズエラに進出して何十億ドルも投資してインフラ整備をするとは、私には考えられません。米軍が現地駐留して保護し、米政府からのはっきりした支援保証で進出したとしても、インフラ整備だけで10年ちかくかかるでしょう。トランプの言葉はいつもの大言壯語で、完全な嘘で、彼のベネズエラ攻撃には価値があると国民に納得させる言い訳です。

ファン・ゴンザレス：ベネズエラ社会主義政府が石油を奪ったという嘘をトランプは国民に押し付けていることを、土曜日のピース・ナウ！特別報告で私たちは議論しました。実際には、ベネズエラの石油産業の国有化は、ウゴ・チャベスのボリバル革命のずっと前だったのでしょう。

ミゲル・ティンカー・サラス：そうです。ベネズエラ人は常に自国の石油産業の支配権を獲得したがっていました。石油産業の黎明期には米欧の企業が関わっていたのは事実ですが、実際の作業はベネズエラ人が実施しました。ベネズエラ人が自分たちの手で石油産業を確立したのです。石油産業はベネズエラの所有物で、外国の石油会社に利権を与えるよりもベネズエラ国が石油から利益を得るという願望が常にありました。

そういう背景のもとで、1975年に石油産業の国有化が行われました。それは有償国有化で、1976年1月1日に発効しました。ウゴ・チャベスではなく、社会民主主義のカルロス・アンドレス・ペレス政権下でした。チャベスが行ったのは、その後改革の第5条で米国企業に残されていた利権の機会を閉ざしたことです。2007年にベネズエラとコロンビアにわたるオリノコ盆地の石油埋蔵をめぐってベネズエラはエクソンモービルとコノコフィリップスと法廷争いし、エクソンモービルが160億ドルを要求しましたが、裁判所は16億ドルの補償支払いを命じました。つまり、国有化は交渉と補償で進められたので、「米国資産と石油の窃盗」ではありません。石油はベネズエラに属し、誰が油田を運営するかを決めるのはベネズエラ政府の権限となったのです。

ファン・ゴンザレス：これまであまり言及されなかった石油以外の資源、米国資本が涎を流して欲しがる資源について質問します。一つは、ノートパソコンや携帯電話に使用され、軍事用途にも使用されている、金やダイアモンドのような希少金属のコルタンです。そのような資源について話してください。

ミゲル・ティンカー・サラス：石油は一部の資源にすぎません。ご指摘のように、ベネズエラは、金、レアアース、希少鉱物も豊富です。天然ガスは世界最大級の埋蔵量です。リチウム資源も莫大である可能性もあります。だから、ベネズエラへの投資家あるいは企業としての米国にとってベネズエラは非常に魅力的なのです。ベネズエラがカリブ海と南米の境界に位置するという地政学的戦略的な面だけでなく、広大な鉱床と石油埋蔵という面でも、米国が支配したがっているのです。第二次大戦中にカリブ海を担当していた米軍将軍が「ラテンアメリカ諸国の中で私が同盟国としたいのはただ一つ、ベネズエラだけだ、何故なら見事に石油と鉱物資源に恵まれた国だからだ」と言いました。この言葉は1940年から現在までの米国政府の姿勢です。

ファン・ゴンザレス：ベラスコ先生に伺います。土曜日の夜、あなたは「マドゥロは裏取引によって大統領府以外の政府機関から見放されていた」とSNSに投稿しましたね。¹今でもそう思っていますか。それはどういう意味ですか。暫定大統領になった副大統領のデルシー・ロドリゲスもこの作戦に加担していたと思っているのですか。

アレハンドロ・ベラスコ：たぶんそうだと思います。憶測の域を出ませんが、手がかりはそういう可能性を示しています²。私たちが知っているのは、マドゥロ夫妻拉致に至る数か月間、マドゥロ、デルシー・ロドリゲス、ホルヘ・ロドリゲス、その他の人たちが・・・

エイミー・グッドマン：ホルヘ・ロドリゲスについて説明してください。デルシーの兄弟ですか。

アレハンドロ・ベラスコ：ええ、デルシーの兄弟です。二人とも・・・

エイミー・グッドマン：1月5日に国会議長になりましたね。

アレハンドロ・ベラスコ：彼は現在国会議長ですが、長年チャベス政権とその後のマドゥロ政権で多くの役職につきました。二人ともラテンアメリカ、特にベネズエラで左翼政治に長く従事してきたという言われています。二人の父親はマルクス主義ギリラで、1970年代米国と親密な同盟関係にあった政府によって暗殺されました。二人はマドゥロ政権及びその前のチャベス政権で大統領の右腕としての地位を確立していました。

先ほど言いかけましたが、拉致に至る数か月間、マドゥロ大統領と側近たちは石油取引や他の資源に対する米からの投資について、トランプ政府と交渉していたことが分かっています。しかし、その交渉に欠けていたのはマドゥロ政権の交代か

¹ 大統領が簡単に拉致されたのは、政府役人中に米国から賄賂をもらって寝返った者がいたからだろうと、私は憶測していた。

² トランプが、それまで支持していたノーベル平和賞受賞者のネオリベラル野党指導者マリア・コリナ・マチャドではなく、裁判所が指名したデルシー・ロドリゲスを認めたことなどがよく引用される。

継続という問題だったようです。土曜日早朝の米軍作戦があつという間に急速に展開し、そのあと48時間以内にデルシー・ロドリゲスが権力を掌握できたことを考慮すると、関係者の間で共謀、共謀とまで言わなくても事前に何らかの話し合いがあったのではないかと推測されます。マドゥロと引き換えに権力の座を得る、マドゥロと引き換えに国の安定を、マドゥロと引き換えに米国と何らかの形の協定を結ぶなどの約束事があったのではないかと推測されます。

もちろん、デルシーたちにとって大きな課題があります。ある点でトランプ路線に乗る振りをしながら、ジャーナリストのアンドレーナ・チャベスが言ったように、ベネズエラ主権を守り、米国・ベネズエラ相互尊重の立場を維持するという、したたかな現実路線を維持できるかという問題です。彼らにそれが出来るかどうかは、私には分かりません。

ファン・ゴンザレス：あなたは米国のベネズエラ攻撃に関して、米国はキューバに大きな関心を払っているという問題を提起しました³。それに関して話してください。

アレハンドロ・ベラスコ：マルコ・ルビオのこの地域における最大の関心はベネズエラでもコロンビアでもメキシコでもなく、キューバだということを長年主張してきました。ルビオの関心は秘密事項ではなく、オープンに発言しています。彼はキューバ系アメリカ人で、声高にカストロ政権、そして現キューバ政権に敵意を表わしてきました。キューバの政権転覆希望を公的に表明しています。

ただ、ルビオにとって困ったことに、トランプが資源のないキューバに興味を示さないのです。だから、イデオロギー反対という点だけでキューバ攻撃案をトランプに売り込むしかなかった。左翼政権を潰そうと持ちかけることです。その機会がベネズエラ攻撃で開けたのです。「低水準の、もちろん命がけだが、低レベルの戦闘でベネズエラを打倒できたのなら、同じことをキューバでも、いやキューバとベネズエラだけでなく、この半球の他の国々をトランプ的世界観に入れることができる」とトランプに言えるようになったのです。私が今重要なことになっていると思うのは、そういうことです。

エイミー・グッドマン：それで、ベネズエラ攻撃とマドゥロ大統領夫妻の拉致から数時間後にトランプ大統領といっしょに記者会見したとき、マルコ・ルビオ国務長官は、「キューバは気をつけろよ」とキューバを威嚇する発言をしたのですね。それから、翌日の日曜日、トランプ大統領は大統領専用機エアフォース・ワンで次のように語り、リンジー・グラハム上院議員が相槌を打つ場面がありました。

トランプ：「キューバはもう終わりだな」

グラハム：「そのとおりです」

トランプ：「キューバはもう陥落するしかないようだな。キューバはどう持ちこたえるか、持ちこたえるかどうかも分からぬ。キューバには今収入がない。キューバの収入はすべてベネズエラ、ベネズエラの石油から得ていたのだ、もうそれができない。キューバは文字通り陥落するしかない。米国にいる素晴らしいキューバ系アメリカ人はそれを大変喜ぶだろう」

グラハム：「はい、そうです」。

それにトランプ大統領は、ベネズエラの隣のコロンビアのグスタボ・ペトロ大統領をも脅迫しています。引用しますと、

トランプ：「コロンビアも非常に病んでいる。コカインを製造して米国に輸出している病んだ男が支配している国だからだ。しかし、そんなことは長く続かないだろうと、私は断言する」

記者：「どういう意味ですか、長く続かないというのは」

トランプ：「いつまでもそんなことはできないということだ。彼はコカイン製造工場を運営しているが、そんなことは長く続けられない」

記者：「コロンビアに軍事攻撃するということですか」

トランプ：「それはいい考えだな」

³ 米軍の攻撃で80人が死亡したと言われるが、民間人、ベネズエラ軍人の他に、ベネズエラ政府の要請で任務を遂行していたキューバ兵32人も含まれ、キューバでは国家全体が喪に服した。

これに対して、コロンビアのペトロ大統領は、Xにかなり長い文を投稿して、トランプを非難しました。引用しますと、「ミスター・トランプ、私を中傷するのはやめてください」と書き、ラテンアメリカ諸国に米国に対抗して結束しよう、この地域は「召使か奴隸のように扱われる」危険にあると呼びかけ、警告しました。だから、米国の目はキューバからコロンビアまで拡大しているのです。これは何を意味するのでしょうか。

アレハンドロ・ベラスコ：そうです。確かに、キューバに関してはトランプが言ったことはかなり正確です。過去10～15年間キューバの歳入の多くはベネズエラ石油からの補助金でした。だから、その小さな蛇口を閉めれば、キューバの状態がどんどん悪化します。国情不安となり、抗議などが勃発し、それが、過去によくあったように、米軍介入の口実となる可能性があります。

しかし、そのシナリオを、キューバがラテンアメリカに持っている象徴的な意味、つまり、キューバはラテンアメリカにとどまらず一つの選択肢の見本、その欠陥についてはいろいろ議論の余地があるにしろ、左翼政治への道という可能性などを結びつけて考えてください。その道を失うと、ラテンアメリカの右翼政権諸国や極右勢力が躍り出てきて、「ホワイトハウスの支配となって、もう地域にはキューバも左翼政権もいないので、我々はこれから望み通りのことができる」と喜び勇むでしょう。だから、私は、これはベネズエラを将棋の駒に使った、もっと大きなイデオロギー・プロジェクト、イデオロギー戦争だと思うのです。

ファン・ゴンザレス：トランプがベネズエラだけでなくキューバ、コロンビア、ラテンアメリカ諸国を視野に入れているという議論ですが、ミゲル・ティンカー・サラスさんはこれをどう思いますか。これまで私も何度も指摘しましたが、ラテンアメリカは50～60年前のラテンアメリカではありません。大衆運動も多くなり、いくつかの国では強い進歩的指導者があります。あなたは、ベネズエラ攻撃以降のこの地域がどのように対応すると思いますか。

ミゲル・ティンカー・サラス：政治的指導者の対応には違いがあるでしょう。アルゼンチンのハビエル・ヘラルド・ミレイやエクアドルのダニエル・ノボアやエルサルバドルのナジブ・アルマンド・ブケレ・オルテスなどはトランプ支持でしょう。しかし、ラテンアメリカの民衆の反応は違います。政治家と民衆とは大きく異なります。あなたが言ったように、民衆の社会意識と動員力は昔よりは非常に高まっています。しかし、ラテンアメリカの多くの国に影響を与えた危機、多くの場合左翼政権の誤った政策のために危機がふかまっています。

その一方で、私たちは米帝国を過大評価していると思います。1月3日土曜日に私たちがベネズエラで見たのは、帝国の大仕掛けショーです。帝国のプロモーション・ショーでした。何故なら、彼らは地上侵攻しなかったからです。地上侵攻すれば長期戦に巻き込まれ、その間にキューバやイランのベネズエラ支援があり、ウクライナ、アジア、台湾などの紛争の可能性を恐れて、地上軍を派遣しなかったのです。だから、米帝国の役割を過大評価し過ぎていると、私は思っています。米軍は他国への地上侵攻はなるべく控えるでしょう。長期的交戦、長期的関与となることを恐れるからです。例えば、キューバに上陸して占領すると、昔コリン・パウエルが提起したドクトリン「ポッタリー・バーン・ドクトリン」が働きます、つまり「店頭で客が品物を壊したら客はそれを買い取らなければならない」という当たり前の論理が働くからです⁴。トランプはベネズエラを統治すると発言しましたが、本当にベネズエラを統治支配すれば、やがてキューバも、やがてコロンビアも、やがてその他のラテンアメリカ諸国も統治しなければならなくなる。米軍にそんな長期的関与が出来る力があるとは思えません。

そう言ったからと言って、私は、米国ネオコンが中東地域の再編を狙っているように、ラテンアメリカの再編をしようとしていることを否定しません。トランプ政権は、マルコ・ルビオ主導で、ラテンアメリカの改造をしようとしています。ラテンアメリカを米国の池に作り変えようとしています。カリブ海を支配下に置きたいのです。彼らはテディ・ルーズベルトの砲艦外交、棍棒外交をこの地域で再現したいのです。しかし、繰り返しになりますが、米帝国の役割を過大評価すべきではないと主張します。土曜日の事件は帝国の宣伝ショーです。

アレハンドロ・ベラスコ：ミゲル・ティンカー・サラスの意見にまったく同意します。特に彼が最後に指摘した点は重要です。トランプは昔の米国、20世紀初頭のテディ・ルーズベルト時代の象徴であった砲艦外交をベネズエラで再現したのです。

⁴ ガザではイスラエルも米国も壊すだけ壊して責任をとっていない。

エイミー・グッドマン：ベラスコ先生、もう時間がありませんが、トランプ大統領がベネズエラ野党指導者でノーベル平和賞受賞者のマリア・コリーナ・マチャドに関して記者の質問に答えた件についてお聞きします。

トランプ：「彼女がベネズエラの指導者になるのは非常に難しいと思う。彼女にはベネズエラ国内で国民的支持も尊敬もないからだ。いい人だけど、国民から尊敬されていない。」

トランプがマリア・コリーナ・マチャドをバスから放り出したことに、多くの人が驚いたと思います。彼女は平和賞をトランプに捧げ、トランプ大統領が受賞すべきだったと言った女性です。トランプに見放された彼女は今後どうなるのでしょうか。それからもう一人の女性、マドゥロ大統領夫人のシリア・フローレスについても話してください。彼女も重要な政治家です。もう時間がないので、簡略にお願いします。

アレハンドロ・ベラスコ：マリア・コリーナ・マチャドが脇に追いやられたことに、多くの人が驚きました。昨日はマルコ・ルビオ国務長官も、彼女にはまだ大統領代行を務める力がないと言いました。マチャドは民主主義についてトランプを過大評価していたと思います。トランプにとってベネズエラの民主主義なんかどうでもよいのです。彼が欲しいの石油です。その意味で、彼女が脇へ押しやられたのは、彼女にとっては驚きですが、別に驚くことではないのです。

シリア・フローレスは、チャベス政権下で輝かしい経歴を持ち、国民議会の議長を務め、かなりの政治的力がありました。この裁判でどういうことが明らかになるか・・・

エイミー・グッドマン：ごめんなさい、時間です。この件は数日後にもう一度取り上げて議論します。それから、トランプ大統領が麻薬取引罪で服役中のホンジュラス大統領ファン・オルランド・エルナンデスを恩赦したことも忘れないでください。

ファン・ゴンザレスとエイミー・グッドマンでした。皆さん、ありがとうございました。